

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300893		
法人名	社会福祉法人総社保育園		
事業所名	グループホーム総社（ユニット総社）		
所在地	岡山県津山市総社309		
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyousoCd=3370300893-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成27年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造建築で室内は落ち着いて木目調で温かみがあり、ホームの窓からは、四季の移り変わりが感じられます。季節を感じられるよう外のベンチに座りお茶を飲んだり、外出の機会をもってます。家庭的な雰囲気を大切に、できる方には、家事(調理、掃除、洗濯干し、洗濯たたみ等)を積極的に手伝っていただけるように支援しています。また、散歩や体操、歌等を取り入れたレクリエーションを行っています。季節の食材を取り入れた食事の提供を心がけ、ゆったりとした雰囲気の中での食事をしています。地域行事、保育園行事に参加しています。月1回の保育園児の訪問を楽しみにされ、ひ孫のような園児との交流により、生きる力をもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は全員女性で活気があり、楽しい事業所であった。「身体拘束はしない」「入浴は毎日」「当たり前」「立位が取れる内はトイレで排泄を」等、支援を惜しまず、当たり前の事と考え介護に務めている。食事は利用者から徴収する食費は安い食材は豪華で美味しい。検食簿を確認すると、ほぼ毎日完食と記録されている。育休後に職場復帰した職員のヒヤリングは印象的だった。「子供の行事は全て皆勤。両立が出来るのは皆さんの協力があるから」と。お互いに協力しながら、利用者は楽しい毎日を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所以来、理念を見える場所に貼り、職員全員で共有し、実践に努めている。日々の暮らしの中でその人らしい生活ができるようミーティングで話し合い、ケアに対する考えを確認し合っている。	4ヶ条ある理念の中で、「楽しい雰囲気の中でゆとりと入浴・食事を楽しんでいただきます」「皆様の傍らにいつも私達がいいます」を重要視し、利用者に寄り添い、食事や入浴を楽しみ、安心した日々を過ごしてもらっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とは避難訓練に参加して頂いている。日頃の挨拶を大切にしており、お花や野菜を持ってきて下さることもある。町内清掃に参加したり歌のボランティアとして訪問して下さっている。	市の公報と同送される町内会の行事予定表で、スケジュールを確認している。町内の清掃活動には、日頃からお世話になっているおれも兼ね参加している。近所の方からはよく野菜や果物等のお裾分けがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域の役員の方に知って頂いている。また保育園児との交流を毎回楽しみにされており双方にとって楽しい交流ができています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回推進委員会を開き、地域、行政や家族の方々に参加していただき、利用者の日々の体調や生活について画像も加え近況報告を行っている。また、話し合いや提案もして頂いている。	口頭で事業所の様子を伝えるより、写真をスライドで流した方が理解が深まると考え、今年度から日々の運営状況を映像で流している。民生委員の方からは、認知症に対する記事や得た情報を提案してくれる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進委員会に高齢介護課の方が出席して頂いているので、ホームの実情が良く判かっている。又、日頃から判らないことは市に相談し、市からも連絡して貰っている。	運営推進会議には行政の職員が参加しており、定期的にサービスの実践内容を報告出来る機会があり、相談等にも応じてもらえる協力関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所以来、「身体拘束をしない」、「玄関の鍵をかけない」とし、職員全体が「拘束しない」ケアに取り組んでいる。	入院中身体拘束され、退院後に状態がかなり悪くなって事業所に戻ってくる利用者を目の当たりにし、職員は絶対に「身体拘束はしない」をモットーに介護に務めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、ホーム内でも勉強会をしている。虐待(暴力だけでなく態度や言葉においても)の防止、利用者の尊厳を守るように努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解を深めるようにしている。今のところ必要とする対象者はおられないが、必要があれば支援に結びつけていくようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項の内容を説明し、理解や了解の上、同意を得ている。質問や疑問があればそれに応じて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の訪問があり利用者の相談やホームでの生活に対する要望を聞き伝えてもらっている。又、ご利用者と話したりご家族との会話の中で意見や要望を聞き反映するように努めている。	年4回来訪する介護相談員は、利用者から上手に要望を引き出してくれる。「職員が優しい」「ご飯が美味しい」等褒めた意見が多い。家族はよく面会に来られるので、面会時には必ず話をし、希望を聞いている。	家族会にはほぼ全員の家族が参加する。その際、日常の様子を写真で放映すると、より一層家族が安心すると思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回定期的にミーティングを開き、意見を出しあったり検討したり、毎日の申し送りでも話し合い、管理者会議でも話し合いをしている。	利用者が混乱しない様、「トイレの座り方」「シルバーカーの置き方」等介護の方法を全部統一しているので、ミーティングではより良いケアの提案が挙がり、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望を出来るだけ取り入れた勤務体制とし、意見を取り入れ、やりがいにつなげるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士や、ケアマネ等の資格取得を勧め又、内外の研修に出来るだけ参加して必要な知識を得るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所やグループホーム協会主催の研修会があれば、参加、交流や質の向上に努めている。職員の相互訪問はしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面接時など、ご本人の生活スタイルを把握し、要望や不安などに耳を傾けている。声掛けを多くして、信頼関係を築き安心して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のプライバシーに配慮しながら家族の抱えている問題、困っていることに耳を傾け、関わりを持ちながら、サービス提供出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接において本人や家族の意向を聞き、情報収集し「今何が必要か」「ご本人にとってどのように支援したらよいか」を考えてサービス提供ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の出来る事をして頂き、生活に「張りややりがい」がもてるように配慮している。（掃除やシーツ替え、洗濯たたみ等など、主婦としての働きを学び、かなり職員が助けて貰っている）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの利用者の様子や行事等を手紙でお知らせし、ご家族との絆を大切にしている。面会も自由に来て頂き、ゆっくりと話して頂けるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの方が気軽に面会に来ていただけるよう支援している。また、入所前から継続でグループ交流をされている方もいる。	津山市内の会場で盛大に家族会を設け、ほぼ全員の家族が参加し美味しい食事と楽しい会話を楽しんでいる。入所前から毎月友人宅を互いに訪問し、お喋りを楽しむ利用者もいる。いつもの友人達と一泊旅行に出掛けたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクやみんなが出来ることを選んで、それぞれ笑顔が出るよう配慮している。その中でごく自然に利用者同士が支え合い関わり合うようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を尋ねたり、退居先を訪問するなどなかなかできていないが、退居されたご家族がお野菜を作り持ってきて下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の今までの生活を大切にして、本人の気持ちや思いを聞き、添えるように心がけている。又、出来るだけ自己決定できるように声掛けなど配慮している。	全員の利用者が女性なので、気軽に思っている事は何でも言ってくれる。訪問当日も色々話をしてくれた。理念に掲げる「皆様の傍らにいつも私達がいます」通り、利用者に寄り添い、思いを聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時生活歴や、馴染みの暮らし方等を尋ね、把握するよう努めている。ご家族の面会時に聞いたこと、ご本人との会話で知りうることなど職員全体で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の日々の行動や状況を記録し日々共に生活する中で、気づきや、出来ること、出来ないこと、好み等を見極め、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どんなことを支援をすれば、ご本人がよりよく生活できるか？ 職員で話し合い、介護計画を作成している。又、面会や手紙等で、ご家族の希望を聞き、生かしている。	6ヶ月毎にモニタリングとカンファレンスを行い、皆で検討し出た提案を取り入れた介護計画を立てている。元々の生活歴をベースとした生活スタイルが盛り込まれた計画である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、一人ひとりの様子などを記録し、必要があれば話し合いをして対処している。伝達ノートを作成し職員で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況の変化があれば、その都度ご家族の希望や要望に応じて対応するよう心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア（歌おう会、手品等）を受け入れたり園児の訪問があったり生活面で楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は基本的に家族が対応している。歯科医の往診や認知症専門医の往診もある。又主治医の往診が月2回あり急な時は夜間や祝日でも適切な指示をもらっている。	嘱託医による主治医の往診が月2回あったり、夜間や祝日など24時間体制で適切な指示がもらえ、医療面では安心である。今年度から法人本部雇用の看護師が週一回訪問し、利用者のケアを支援してくれたり、困った時は相談に乗ってもらえ、大変助かっている。職員は利用者の表情をよく観察し、体調の変化を見逃さない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本部雇用の看護師が週1回訪問し個々の精神面や体調面についての報告を行い対応について相談し、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ホームでの様子を介護添書で退院時は病院から看護添書により、相互に連絡を取っている。又入院中は、お見舞い様子を伺聞きし、退院時には状況把握が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援は、今の体制では難しく、看取りは考えていない（関連母体の特養等の連携があるため、入居時家族の希望を聞き出来ること、出来ないこと等話している）	入居時に立位が取れなくなったら、関連施設を案内する旨を伝えている。退居後も行く先があると家族からは安心が得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し掲示しながら、全職員がすぐ目を通せるようにしている。また、利用者の写真を近隣施設に配り緊急時は協力を得られるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定し、避難訓練を実施している。近隣施設（椿寿荘、保育園、国府の里等）とは、協力関係が出来ている（訓練の時地域の方の、協力が得られている）	運営推進会議に避難訓練の参加を呼びかけた。消防団員である元町内会長が、近所の方に声を掛けてくれ、何人かが参加してくれている。居室の横に「避難完了」の札を掲げ、避難確認の基準にしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、私たちの先輩であり利用者の生きて来られた人生を尊重し日常生活の中で誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	盗癖のある利用者が物を取り込んでも、注意は一切行わず、さりげなく元の場所に返却している。物盗られ妄想の利用者から「物が盗られた」と言われれば、「そうなんですね」と受け入れ、一緒に探し、さりげなく目のつく場所に置き直し対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人が希望を表したり、自己決定が出来るよう選択できる声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、それぞれが自分のペースを保ちながら生活できるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度を一人で出来ない方は手助けしている。又訪問理容を利用し、カットしてもらっている。外出時には簡単ではあるがメイクも施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にとって、食事はとても楽しみで毎回「うわー！ご馳走！」と言う声に励まされ、美味しい食事を作るよう心がけている。又一緒に食卓を囲み、楽しく食事が出来るよう支援している。	毎月行われる「おたのしみ会」では、季節の食材を取り入れた利用者と一緒に作成出来る食事を楽しんでいる。お月見の時は、3種類のおはぎを作り、ウッドデッキで昼間の月見を楽しんだ。検食簿にはほぼ毎日完食と記載されていた。食事が美味しい証拠である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握し食事量、水分量等を記録し、健康管理に役立てている。調理もその人にあった方法で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし個々の力や必要に応じて介助を行い、歯磨きを習慣にして頂いている。昼はうがい液でうがいを、夜は義歯をポリデントで殺菌消毒して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンにより、声掛け、誘導など介助し、後始末など出来ないところを介助している(排泄記録を付けることにより、一人ひとりの状態を把握している)	歩行可能な間はトイレでの排泄が当たり前と考え、時間毎に区切られた排泄スケジュール表で、利用者の排泄状況を把握しトイレに誘導している。おむつ利用は考えていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘によって問題行動を引き起こすことも考えられるので水分補給に配慮している。又、野菜など、繊維質の多い物や乳製品の摂取も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴をととても楽しみにされている方もあり、バイタルチェックにより、可能な限り毎日入浴して頂いている(時に入浴を拒否される方も居られるが無理強いせず、気持ちを大切にしている)	先生から指示が出ている心筋梗塞等以外の利用者は、毎日入浴可能である。熱いお湯が好きな利用者は、一番風呂に入ってもらっている。浴槽は深く、肩までゆっくり浸かることが出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は今までの習慣から寝る時間がだいたい決まっており希望により安眠灯等で明かりを調節したり季節に応じた室温を心がけている。昼間も自由に休息しておられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更などは、申し送り簿に記入して、共有を図り、誤薬の無いようにしている。又、服薬ファイルを綴じており、職員全体が内容を把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご家族の話などからできる事本人が楽しみにしていること好きなことをして頂き感謝の言葉を伝えるようにしている。又、お楽しみ会など計画し楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コーヒーを飲みに出掛けたり買い物やドライブに出掛けている。なかなか外出できない方には、玄関先で日光浴をしたり歌を歌ったりして戸外の空気に触れるようにしている。	月1回は外出に出掛け、季節を肌で感じてもらっている。保育園の運動会に参加し、園児と一緒に玉入れを楽しむ。理事長の自宅で行われる保育園児と父母の集まりに、利用者も招待され、食事や会話を楽しむ。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はお金を持つことで、かえって混乱を招く方もおられ所持していないが中には所持されている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどのご利用者は電話の声は聞き取りにくく、かかってきてもうまく言葉が通じていない。年賀状を書いて送る等支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や、写真を飾ったり、ご利用者の作った物を飾り、会話を引き出し、居心地良く過ごせるように配慮している。	職員が自宅から持参した花を皆で活け、季節を醸し出している。壁には行事毎に撮影されるスナップ写真や利用者の塗り絵の作品がたくさん飾られている。利用者もとても楽しみにしている様だ。小高い場所に事業所は在り、見晴らしが良い。春には神楽尾公園の桜が観賞出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は狭いが、ソファで気のあった方とTVや会話などをして自由にすごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人によっては使用していた馴染みの物を持ち込み自分の居場所となっている。また写真を飾ったり自分の製作物を飾っている方もおられる。	花が好きな利用者の居室には、家族から送られた造花やプリザーブドフラワーが彩りを添えている。妹と一緒に撮った写真と娘から送られたぬいぐるみを枕元に置き、安眠にかなげている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりの設置により安全に歩行できるように配慮している。また、トイレなど、昼夜小さな明かりをつけたり大きく表示し場所が判るようにして見守りをしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300893		
法人名	社会福祉法人 総社保育園		
事業所名	グループホーム総社 (神楽の里)		
所在地	岡山県津山市総社294-7		
自己評価作成日	27年11月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370300893-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成27年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高台にあり、陽当たりが良く、明るくホーム内も広く、ゆったりと過ごして頂いています、家庭的な雰囲気です。一人ひとりが安心して過ごせる居心地の良いホームを提供し、残存機能を活かし、生き生きと生活できるよう支援しています。
毎日のレクリエーションでは、転ばない体操、手、口の体操、しりとり、ボール投げ等、全員参加され楽しく過ごしていただいています。
旬の食材を使った料理を食して頂き、特に野菜の種類を多く使用する様心がけています。
地域行事に参加させて頂いたり、地域の方が唄のボランティアとして訪問して下さい。同じ法人の保育園児が1ヶ月に1回ホームを訪問しご利用者と一緒に楽しく過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作成した理念を、施設内に掲示し、日々実践に努力しケアにいかしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加させて頂いたり、地域の方が唄のボランティアとして訪問して下さり、運営推進会議にも出席して下さい。地域の中の人々が職場で働いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で地域役員に知って頂き、認知症に対する理解を広めている。少しずつ前進がみられる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、会議を開き、地域の方や市職員、家族に参加してもらい、現状報告し、行事などのビデオ鑑賞後話し合い意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から判らない事は市に相談し、指導を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り等で気になる問題への対応は話し合う。又、玄関は開放し、夜間のみ施錠している。徘徊のある方は、常に居場所の確認をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関係法について、ミーティングにて勉強会を行いご利用者の尊厳を守る様努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、理解を深めるようにしている。1名の方が日常生活自立支援事業の手続きを行い活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書・重要事項の内容を説明し、その都度質問を受け対応し同意をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会時に意見をお聞きし、申し送りノート、ミーティングなどで話し合い共通認識となるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや毎日の申し送り等で、意見や提案を聞き反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望を出来るだけ取り入れた勤務体制とし、意見を取り入れ職員個々が向上心を持って元気に気持ち良く働ける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を勧め、内外の研修を受ける様に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの相互訪問を模索しており、市役所やグループホーム協会主催の研修会にも参加し、交流や質の向上に努力している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、ご本人に見学して頂き、要望や不安などに耳を傾け、今まで使い慣れた物などを持参して頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接において、ご家族のプライバシーに配慮しながら家族の意向を聞き、要望にそえる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって、一番良いと思われる方法を共に考え情報提供をしながら進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔話を聴いたり、目線を合わせて会話をし、ご利用者、職員がお互い助け合いながら、楽しく一日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の生活状況を担当職員が手紙にて報告している。ご家族との絆を大切にし面会時もゆっくりと会話をして頂けるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の馴染みの方達が、気軽に来所して頂ける様オープンドアで支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションで輪になって、体操、ゲーム等の中で、仲間意識を高める声掛けをし笑顔が出る様努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、他施設に入所された方の近況を尋ね、立ち寄る様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の今までの生活を大切に、言葉や表情、行動から思いを感じとるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴をお聞きし把握するよう努め、職員全員共有しケアにいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の日々の行動や状況を記録し、出来ること、出来ない事を把握し、ミーティングで話し合い、職員全員で一人ひとりの自立支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く生活する為に、どのような支援をしたら良いか、職員で話し合い介護計画を立てる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については、バイタル、食事量、排泄、入浴、レク参加状況を介護記録及び申し送りノートに作成し職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者を取り巻く環境が変われば、その都度、職員全員に申し送りをし、対応していく様に心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の納涼祭、秋祭り等に参加、地域ボランティアによる歌おう会、園児の訪問など有り、楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診が月2回有り、本人、家族とも安心しておられる。通院は基本的には家族が対応しているが都合により職員が同行する。又必要が有る時は歯科医の往診も有る。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	27年8月より非常勤看護師が週1回来所し、健康管理、相談、指示を仰ぎ、医療と連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、ご利用者の状況を相互に提供し連携をとっている。入院中は、家族に様子を訪ねたり、見舞いに行き、病院関係と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向にそって可能な限りの支援を行いたいと思うが、今の体制では難しい。関連母体の特養(鶯園)と連携を図り、家族の方とはその都度話し合いをする		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し、全職員がすぐ目を通せるようにして、事故発生の場合にはすべての職員が出来る様に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定して避難訓練を実施し、近隣施設との協力関係が出来ている。訓練の時、地域の方の協力も得られている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人間としての尊厳、生きてこられた人生を尊重し、プライバシーの確保に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を選択し自己決定できるよう、コミュニケーションを図っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活で利用者一人一人その時にあった気持ちを優先できる様、心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類や、ご本人の好みの服を一緒に選び、ご利用者に満足して頂ける様支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物を採り入れ、一人ひとりの食べやすい状態を配慮し、職員も同じテーブルにて食し楽しく食事ができる様支援している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調、体重の増減を考慮し、一人ひとりに合った食事量、大きさを配慮している。水分、食事摂取量、バイタルチェック、排尿、排便表を毎日記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、夕食後は歯磨き、義歯はポリデント使用し殺菌消毒する。自力で出来ない方の一部介助を行う。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンにあった声掛け誘導介助、後始末、排尿、排便状態を把握し記録している。トイレでの排泄に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と食物繊維の多い食材を取り入れている。特に野菜を多く使用し、排尿、排便チェック表を記入している。服薬にて排便コントロールが必要な方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックを行い特変の無い方には、毎日午後より入浴。主治医の指示にて、心疾患、脳血管疾患の方は二日に一回入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた室温を心がけ寝具で調節し、一人一人の状態に合わせて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携し管理しており、服薬確認を習慣化できている、薬の変更は送りノート、処方箋ファイルを確認し、職員全体が内容を把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる仕事をして頂き、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	保育園関連の行事、町内会の納涼祭などに参加する為の外出をしている。季節毎の行事を企画し外での食事を楽しむ。一年に一回家族会を行いご家族と一緒に外食を楽しむ。歩行困難な方が多い為日常的な外出はしにくい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人では、お金の管理が困難な為、ご家族に書面にて了解を得て、施設で管理をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状作りを毎年行い、ご家族に送り喜ばれている。なかにはできる方は手紙、電話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間として、四季を感じる事ができる空間作り、手作り作品や行事等の写真を飾り、四季の花を飾ることで季節感をあじわって頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールのソファで、利用者同士くつろぎ会話、テレビ観賞され落ち着いた雰囲気の中で過ごして頂ける様工夫、支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の写真、作品を飾り、馴染みの物を持って来て頂き、落ち着いた生活をして頂く。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや、廊下も広くてゆったりしている。手すりの設置により安全に歩行できる様配慮している、又トイレの灯りは昼夜とわず付けて場所が分かる様安全に配慮している。		